

# 地元食材の中沢食堂を

## 江戸川大生が魅力調査中間報告

### 蔵や花火工場活用も提案

駒ヶ根市中沢区の魅力方を調査し地域振興につなげよう。現地での1ドロークに取り組んできた江戸川大学(千穂県)社会学部の鈴木輝隆教授のゼミ生らが13日、中沢公民館で中間報告を開いた。学生たちは地区の豊かな食材を提供する「中沢食堂」の設置や産業を生かした観光地など今後のまちづくりとなる指針について、若者ならではの視点で提案した。来年2月の改めて報告会を開催する。(前田智威)



調査は指導者を含む23人がグループに分かれて、2日間地域の人材、景観、テザイン、食文化などをテーマに住民30人に話を聴き、区内を巡った成果を発表した。地域の人材を調査したグループは、深い山里を楽しむながら暮らしている住民の姿に触れながら、蔵や古い建が残っている景観に着目。住民方への体験ツアーや蔵を適用した販売所、案内所の設置を提案した。景観をテーマに調査し、区内各地でスケッチを重ねたグループも蔵と山並み、種類豊かな2日間の調査の成果を発表する江戸川大学の学生

学生(右側)の調査発表や提案二耳を傾ける住民たち＝駒ヶ根市中沢公民館で



駒ヶ根市中沢区の人口増や地域振興を目的として、中沢の窓口に地域の活性化の意識の高さ、食への物のおいしさなどを挙げ、学生たちが発表した報告を聞いて「私たちが何十年もする「中沢食堂」設置のアイデアを披露した。区内に花火の製造工場がある特徴を生かした手作り花火、貸してほしい」など要望。ただ、V店は2店舗は体験の企画や、直売所を中心とした、景観を考慮する今の景観に区内の食品製造の関係企業や団体が連携して、新しい特産品開発に取り組むことを提案するグループもあつて、協議した。中間報告会には地元住民が約4人が出席し、学生たちの学生たちは中沢の全体の印象として、山々のある立体物について調査したグループ

2009  
9.15  
中日新聞

## 中沢の地域振興策 提言

### 江戸川大生 駒ヶ根で中間報告会

地域の現状や魅力を見直して、土壌を公募しては、区地域づくり委員会「産業に経営意識が」と市が同大でテーマを挙げて、「手料理」学科の鈴木輝隆教授を講師として、協力を依頼した。調査には鈴木教授に「何を提案したいか、地域を見せたいか、学生たちの希望を聞き取り、委員会の坂井昌平委員長が、中沢の窓口に地域の活性化の意識の高さ、食への物のおいしさなどを挙げ、学生たちが発表した報告を聞いて「私たちが何十年もする「中沢食堂」設置のアイデアを披露した。区内に花火の製造工場がある特徴を生かした手作り花火、貸してほしい」など要望。ただ、V店は2店舗は体験の企画や、直売所を中心とした、景観を考慮する今の景観に区内の食品製造の関係企業や団体が連携して、新しい特産品開発に取り組むことを提案するグループもあつて、協議した。中間報告会には地元住民が約4人が出席し、学生たちの学生たちは中沢の全体の印象として、山々のある立体物について調査したグループ

域の現状や魅力を見直して、土壌を公募しては、区地域づくり委員会「産業に経営意識が」と市が同大でテーマを挙げて、「手料理」学科の鈴木輝隆教授を講師として、協力を依頼した。調査には鈴木教授に「何を提案したいか、地域を見せたいか、学生たちの希望を聞き取り、委員会の坂井昌平委員長が、中沢の窓口に地域の活性化の意識の高さ、食への物のおいしさなどを挙げ、学生たちが発表した報告を聞いて「私たちが何十年もする「中沢食堂」設置のアイデアを披露した。区内に花火の製造工場がある特徴を生かした手作り花火、貸してほしい」など要望。ただ、V店は2店舗は体験の企画や、直売所を中心とした、景観を考慮する今の景観に区内の食品製造の関係企業や団体が連携して、新しい特産品開発に取り組むことを提案するグループもあつて、協議した。中間報告会には地元住民が約4人が出席し、学生たちの学生たちは中沢の全体の印象として、山々のある立体物について調査したグループ

た。来年2月の改めて報告会を開催する。